

PTA

やまがた

第27号

平成15年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 板垣喜代志

山形市緑町1-9-30

山形県精神保健福祉センター内
TEL 023 (631) 0055 FAX 023 (635) 4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023 (631) 5533



県P連活動スローガン

「心豊かな、たくましい子どもたちを育み、
共に学び合う新世紀のPTAの創造」
—— 子どもたちの未来に、夢と希望を ——

家庭・学校・地域が 一体となった活動を目指して



山形県PTA連合会会長
板垣 喜代志

して、メディアやいろんな情報を通して議論が繰り広げられています。それに伴ってPTAの間にも様々な心配や意見が出されるようになりました。各地区、単位PTAでも、子どもたちに豊かな人間性を育成するために、さらに、純粋な子どもたちの幸せを願って、新しい時代にあつた新たな感覚で活力ある活動が積極的に展開されていることに敬意を表するところであります。

教 育改革元年を迎え、完全学校週5日制が四月よりスタートし、「ゆとり」の中で一人ひとりの子どもたちに「生きる力」を大きくむことを基本的なねらいとした新学習指導要領に基づく教育課程が実施されました。

これらは自ら進んで学習できる力をはぐくもうとするもので、従来の多くの知識を一方的に教え込むことになりがちだった教育から「考える力」「表現する力」など個々の知識の土台となるべく「力」を重視した教育活動が展開されております。そ

社会の変化が激しい中であつて、今、PTAには、親として、もつとも身近な大人として子どもたちの生き方や教育環境等に常に問題意識をもつて適切に対応していくことが求められています。七月には、県PTA指導者研修会が開催され、PTAのリーダーとしての必要な知識や技術の習得を目指して、資質の向上が図られました。参加された会員の皆様には、各地区に戻られ研究の成果を有効に活用されていることを期待いたしております。

また、八月には埼玉県において全

国研究大会が開催されました。子どもの安全確保と健全育成のためには、家庭・学校・地域の連携を一層強めていくことの大切さについて話し合いました。また、大きな夢と希望を持つ創造性豊かな子どもを育てるには、個性を大切に、家庭教育の充実や支援を目指したPTA活動の推進に努めることを確認しました。

九月には「夢を語っていますか？感動を伝えていきますか？」をテーマに東北ブロック研究大会が盛岡市で開催されました。県内各地より多くの会員の皆様の参加を頂き、多くの出会いが生まれ、意義深い研修ができたことを確信しております。

十月には本会最大の行事である県PTA研修大会が山麓湯の町上山市で開催されました。「共に学び実践しよう！子どもたちがたくましく心豊かに育つように」のテーマのもと、多くの会員の皆様に議論を深めて頂きました。分科会では「家庭の教育力向上」「新しい学校教育」「地域との連携強化」の三つを柱にPTAとしての役割や活動のあり方を再確認し合いました。全体会の中での記念

講演では、鶴岡市生まれで、元日本テレビアナウンサーの石川牧子氏より、「自分らしく生きる」と題して、山形県の思い出を含めた心に響くお話を聞きできました。本研修大会は、正に「教育改革元年」の実りの秋にふさわしい意義ある大会となりました。本大会の準備にあたられた山形市PTA連合協議会の皆様に心より御礼を申し上げます。

十一月には、県教育委員会と高等学校PTA連合会との合同教育懇談会が開催されました。「生涯子育て」を話し合いの柱に「家庭・家族のあり方」について大いに話し合われました。県教育委員会の皆様方に教育の今日的課題についてご指導頂き、また、PTA活動のあり方についても適切なご助言を頂き、大変に意義ある懇談会になりました。高P連事務局及び関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

本年度は「教育改革元年」の年でありましたが、目指すべき方向へ価値ある一歩を踏み出すようではありませんか。

最後になりましたが、本会運営にご理解とご支援を頂いている関係各位に感謝申し上げます。今後もお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

がんばる姿 ～上山大会～



大会実行委員長
須田 仁美

第 五十四回山形県PTA研修大会上山大会が、「共に学び実践しよう！子どもたちがたくましく心豊かに育つように」——家庭・学校・地域が一体となった活動を目指して——を主眼に、平成十四年十月十九日、多くの方々の熱い思いをいただき、無事終えることができました。ご支援・ご協力いただきました皆様方、本当にありがとうございます。

この大会は、完全学校週5日制がスタートし、子どもを取り巻く環境も変化して決して良いとは言えない中、子どもの健やかな成長のために、家庭・学校・地域それぞれの教育力を見直し、どう連携していくべきか、方向性を見出したいと行なわれました。大会を通して、簡単に答えが見つかるものではありませんが、

悩みながらも工夫して、その前向きな積み重ねをしていくことが大切であると感じました。その意味でも、このような研修大会は、「今PTAが求められているものは何か。」常に課題を持ち、研修を重ねる中で、気づいたり、考えたりしていくことのできる大切な場であるように思います。

他にも研修大会は大切な場であると感ずることがあります。それは、子どもを通して出会えた私達が、子どもに夢や希望、生きる勇気を与えられる大人であるために、学んでいこうとする思い、がんばる姿、笑顔、やさしい言葉にふれることができるからです。私もがんばろうと、力づけられました。子どもは、そんな大人のがんばる姿を、まっすぐな気持ちで見ているに違いありません。

最後に、私達実行委員は、手づくりの大会にしようという願いを持ち、早くから準備委員会を立ち上げ、たくさんの時間をかけ、そして、山の十三の小中学校すべてが、主体性を持って取り組んでくれました。この体験から、確実に、上山市PTA連合協議会の結びつきが強くなったと共に、多くを学びました。このエネルギーを今後のPTA活動に生かしていきたいと思えます。

第55回山形県PTA研修大会米沢大会のご案内



準備委員長
黒 金 道 雄

明 治先哲である渋沢栄一氏の言葉です。私の大好きな言葉です。

『今日を楽しむものは花を活けよ 一年先を楽しむものは花を植えよ 三十年先を楽しむものは木を植えよ 百年をおもんばかるものは人を育てよ』まさに私達PTA活動「人を育てよ」であると考えさせられます。又、どんなに自分が努力し勉強し、自分の能力を高め、自分の人格を磨いても、それは自己満足の世界です。現実において何が大事なのかといえは、人が自分を評価してくれることです。自分の価値は、人が評価してはじめて現実に生きていくことができます。人が認めてくれなかつたら、人がそれを発見してくれなかつたら、人がそれを評価してくれなかつたら、自分の現実的価値

はゼロであると思っています。だからこそ、人と人との関わりが大切だと思えます。そこに人が育つ原点があるのではと。

いじめ、不登校、様々な青少年の事件、皆、人と人との関わりが薄い所為ではないでしょうか。子ども達ばかりではありません。むしろそれは私達親自ら、人と人との関わりが薄くなっているからではないでしょうか。各PTAでは、子ども達の幸せと健康の為、日々活動しています。県PTA連合会では、日頃から実践活動を行っている県内各地域のPTA会員が年に一度集まり、様々な問題を共通認識し、掘り下げ語り合い、次の行動に活かしていただくべく、県PTA研修大会を開催しています。

一つの地域にどつぶりつかつている私達にとつて、いろいろな事例、考え、意見を聞き、あらたな発想・考えを取り入れられる貴重な研修大会であろうと考えます。これも人と人との関わりです。

平成十五年度は米沢大会です。現在、米沢に行つて良かったなあと思のある大会にすべく検討を重ねている所です。米沢で地域を超えた連携・交流・人と人との関わりを一杯味わいましょう。十月二十五日お待ち申し上げます。

家庭教育の充実を目指して

—— 県教育委員会との教育懇談会 ——

平成14年11月21日、山形市ホテルキャッスルを会場に、県教育委員会との合同教育懇談会が開催されました。県教育委員会からは、ご多忙にもかかわらず、長南教育次長をはじめ、教育行政の各担当課長など昨年と同じ9名の出席を頂き、また県高等学校PTA連合会からは、会長はじめ、地区代表の方、事務局の方など、14名という今までになく多数の出席を得ることができました。



調査の結果、子育てに夢

環境づくり
を行って
る事例紹介
がありまし
た。また、
家族の在り
方に関する
アンケート
調査の結果
については、
子育てに夢

文責・県PTA母親委員会
副委員長 森 富喜子

県PTA連合会 母親委員会の本年度の活動



県PTA母親委員長
山田 弥生

平 平成十四年は、サッカーワールドカップ日韓共同開催、ノーベル化学賞・物理学賞ダブル授賞など、日本が熱くなつたことも多い年でしたが、先が見えにくい社会状況の中で、「夢をもつて生きていけるよう、まず大人が夢を語らなくてはならない」そんな思いにさせられた年でした。

そんな中、子ども達がゆとりの中で創造性をはぐくみ、それが生きる力を養う動力になるよう願って学校完全週五日制が始まりました。子ども達の生活はどう変わったのか、また今後の課題などについてPTA活動の中で大きな話題になりました。しかし、私達は子どもを取り巻く環境がどのように変わろうと、家族が協力し合い、学校と連携しながら地域の中で、子ども達を

守り育てていくことが、生きていく力をはぐくむ最適な方法だと確認し合いました。

さて、今年度県PTA母親委員会は、昨年度に引き続き、各地区の単位PTAに母親委員会設置を目標に情報交換をし合い、各地区それぞれの組織充実をはかりました。また、県PTA研修大会に於いては家庭教育分科会、東北ブロック研究大会に於いては特別分科会に母親委員がパネリストとして参加しました。

さらに、県教育委員会と、県高等学校PTA連合会との合同懇談会には、各地区ほとんどの母親委員が参加し、家族の在り方について話題提供しました。今年度は、「子どもの命や生きる権利を守り、夢や心をはぐくむ家族の在り方」について考える活動ができたと思います。

最後に、県母親委員会活動にご理解とご協力を頂きました関係各位の皆様へ、心より感謝申し上げますと共に、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願いいたします。



話題提起

今回の合同教育懇談会は、「学校週5日制のもとでの家庭教育の充実」をメインテーマに、北村山高校PTA会長の田中氏より、完全学校週5日制における家庭の役割について、また県PTA理事である山田氏からは、東北PTA連絡協議会母親委員会で行った家族の在り方に関するアンケート調査の結果について意見交換を行いました。

初めに、学校週5日制における家庭の役割について、北村山高校では、親子で尾花沢祭りの花笠パレードに初参加をしたこと、また学校ボランティア活動として、全校挙げて学校周辺、駅周辺等の公共施設のごみ拾いを行うなど、高校生のパワーを生かせる場の設定や自主的活動を行う

活動報告

- 第一回母親委員会 6月11日**
 - 。正副委員長選出
 - 。活動計画及び情報交換
 - 東北ブロック研究大会 9月6日**
 - 。第五分科会にパネリストで参加
 - 第二回母親委員会 9月17日**
 - 。日本PTA・東北ブロック研究大会報告及び情報交換
 - 県PTA研修大会 10月19日**
 - 。家庭教育分科会パネリスト参加
 - 第三回母親委員会 11月21日**
 - 。県母親委員会だより」作成案
 - 。県教育委員会、県高等学校PTA連合会との合同教育懇談会参加
 - 第四回母親委員会 平成15年2月5日**
 - 。「母親委員会だより」作成
 - 。今年度反省と来年度にむけて
- 各地区では**
- 山形市**
 - 年間テーマ
 - 「生きる力と夢をはぐくむために」
 - 年三回の委員会・拡大委員会開催
 - 「マザーズねつとわく」発行
 - 上山市**
 - 年二回の委員会開催
 - 市教育長との懇談会参加
 - 天童・東村山**
 - 年二回の委員会開催
 - 西村山**
 - 年間テーマ
 - 「子どもの命を守る」親の役割」
 - 年三回の委員会開催
 - 北村山**
 - 年三回の委員会開催
 - 村山新市長と語る会参加
 - 最上**
 - 年二回の委員会開催
 - 米沢**
 - 地区母親委員会全員研修大会開催
 - 年三回の委員会開催
 - 東置賜**
 - 地区P協議会で県母親委員会の活動報告
 - 西置賜**
 - 年一回の委員会開催
 - 単位P設置状況調査
 - 鶴岡**
 - 年二回の委員会開催
 - 映画上演会
 - 東田川**
 - 輪番制で代表一名選出
 - 西田川**
 - 町教育委員長と語る会開催
 - 酒田市**
 - 年四回の委員会開催
 - 単位P活動調査アンケート実施
 - 飽海**
 - 郡PTA理事会参加

オープンな意見交換

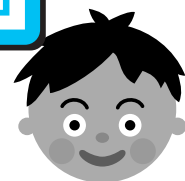
家庭環境については、今の経済情勢から家庭の雰囲気も通常でなくなるとの意見。また、高校、特に進学校では大学受験に向けた教育方針になつていくことから、小中学校でのびのびしていた子が戸惑っているのではという意見などがありました。

また、地域との連携やボランティア活動については、天童市が実施している「地域づくり委員会」の地区活動の一例として、子育て基金を設け、児童保育や食育の講演会などに充てるなどの活動状況が報告され、さらに、新庄北町分校では、ボランティア活動を一生懸命やったことにより、町の推薦枠という形で、大学のAO試験で合格している生徒

などがいるとの事例紹介がありました。県高校教育課からは、少子高齢化が進む中で、地域との連携は重要であり、また高校生が地域で果たす役割は大きく、今後もその方向で取り組んでいきたい。また県社会教育課からは、高校生の地域ボランティア活動は、全国的にも「山形方式」と高く評価されているが、県民にはあまり知られていないため、活動状況を紹介する放送を予定しているとのことでした。

最後に長南教育次長より、学校週5日制が出てきた背景についてお話がありました。それは子どもが変わつたという実態、つまりは「人間力」が乏しくなつてきているためであるとのこと。そこで子ども主体の活動の場を保障することや、大人社会など子どもが関わる環境を変えることを学校や、家庭、地域が連携しながら取り組むことが週5日制のねらいであるとお話でした。

県民運動『大人が変われば子どもも変わる』



～地域ぐるみ子ども育成活動への取り組み その3～

地域ぐるみ子ども育成活動

南陽市立小滝小学校PTA

本校は、南陽市の最北部の山間部に位置し、児童数二十三人の小規模校です。

本PTAでは、心豊かたたくましい子どもを育てるために、家庭、地域、学校の三者連携の中心的存在として活動しています。

一、花いっぱい運動の推進

県道脇の花壇への地植え、植栽したプランターの設置などにより地区内を花いっぱいとしています。以前は各団体が各々でやっていたものが、子どもの意見をもとに地区全体の取り組みとして組織され、老人クラブ、子供育成会、PTAそして学校と、地区をあげて子どもを見つめながらの活動となっています。

二、山村留学での故郷体験

夏休みに横浜からの留学生を迎え、本校児童とともに自然体験、民泊等での交流活動で、故郷のよさを最認識させて十回目。山村留学協力会として地域の様々な方が係わりながら作りあげていますが保

護者は夫婦そろって参加し、準備、運営、民泊の世話まで実質的な中心となって活動しています。

三、地区大運動会

地域と学校が一体となつて行い、PTAは総務委員会を中心に全面協力しています。

四、生活と教育を語る会

小滝ゆかりの講師を招いての講演や児童の小滝に対する思いや意見発表を話題としながら、小滝の生活と教育の今と未来を語り合う会で、地区PTA、学校がいつしよになつて地域おこしのきっかけ作りをしています。

五、学習活動支援

地域学習の講師、学校の畑の栽培指導、生活リズム運動や挨拶指導などを年間を通じて行っています。

「地域の子どもは地域で育てる」という考えのもとにこれまで地区や学校との連携を密にしながらかつてきました。今後は、新しい時代に即したさらなる連携を求め、子育て共同体として「地域の学校づくり」を進めていきたいと思ひます。

地域ぐるみ子ども育成活動

鶴岡市立朝陽第五小学校PTA

本校は、鶴岡市の玄関口である鶴岡駅より東に約十分の距離に位置し、児童数五六三名で、平成十五年度は創立二十九年の歴史を刻みます。

本校の旗印「キラリ輝け朝五小」の基に実践している活動の一端を紹介致します。

一、子供会リーダー研修会

コミセンと共催で始まった活動は、町子供会のリーダーとしての養成と共に、地域育成担当者同志のコミュニケーションを図る事を目的に、今年で十七回を数える歴史の取り組みです。新年度が始まつてすぐの為、子ども達の自覚が芽生える良い機会であり子供会活動でのキラリが発揮される礎となっています。

二、踊りフェスティバルへの取り組み

天神祭りの踊りフェスティバルに参加して回を重ねる事、今年で早六回目となります。毎年六年児童とPTAで踊りを作り選曲に合わせた練習を重ねます。祭り当日、鶴岡の目抜き通りを踊る百余名は最初はどきどきですが、踊り始

めると回りの観客の「五小頑張れ、うまいぞ」の声援に励まされ踊りに更なるキラリが加わります。踊った後の達成感や地域からの温かな支援を直に感じと取る子ども達は地域の中で生き育つ手応えをしっかりとつかみます。

三、地域との交流活動

週5日制になつて今以上に地域の人達との交流が盛んになっています。ドッジボール大会、卓球大会といったスポーツ活動は勿論、紙芝居・読み聞かせ、陶芸、リース作り、学区探検、更には地域の同好会のメンバーが五小の仲良しタイムに出向きランドゴルフ、囲碁を指導するといった地域の先生的な活動も実践して頂いています。又今年の冬は五小PTA・OBを中心として学校の桜の木にイルミネーションを点燈させ、子ども達に冬の桜を見せる企画を実施しました。子ども達に美しさをプレゼントし元気づけようと願いが伝わったと思つています。今、学校・PTA・地域との連携と協力で子ども達のキラリ輝く姿が増えている事を感じています。

地域ぐるみ子ども育成活動

温海町立山戸小学校PTA

本校は温海町の北部山間地にあり、児童数六十一名の小規模校です。「会員の参加・交流・研修を推進し、学校教育活動を側面から支援する」をPTAの活動方針にしています。

組織は学年部と三つの専門部（文化部、保体部、生活指導部）から構成されています。それぞれ工夫を凝らした活動を行っています。本校PTA活動の特筆すべき点は、PTA単独ではなく、地域との関わりで様々な事業や取り組みを実施していることです。

今年度の最も大きな事業は自然体験荘建設と炭焼窯改修作業でした。本校児童は町の緑の少年団に所属し、いろいろな体験活動や奉仕活動を行っています。今回その環境をより充実させようというねらいで、PTA会員のみなならず地域住民総出でこの二つの作業に取りかかりました。実質二カ月間にわたり、休日返上での作業です。「体験荘」は

基礎工事、大工作業、そして屋根葺きに至るまで、「炭焼窯」は土石運び、丸太組み、土固めまで全てPTAを中心にした地区民の作業で完成させました。子ども達も草むしりや清掃など、自分達ができる範囲の作業を行いました。

また、本地区は山戸能や山五十川歌舞伎に代表されるように、芸術文化活動に大変力を入れており、PTA活動もこの精神を大いに受け継いでいます。地域素材を生かした「ふるさと学習」への協力もその一つです。歌舞伎、謡、お囃子、米づくり、炭焼き、野菜栽培等の様々な体験活動を全面的に支援しています。

学校と家庭の連携、会員相互の研修に役立っているものに年二回発行する広報誌「わかあゆ」と四十年以上も継続して発行している手づくり文集「かんじき」があります。いろいろな場面で子どもと関わり、大人が学び成長することによって子どもも成長します。今後のPTA活動をより充実させていきたいと考えています。

完全学校週5日制の実施によりコミュニケーションセンターを会場に、地域の先生方による囲碁将棋、料理、無線教室を開催しております。

一、友達になろう！

親・学校・地域

学年PTA行事では、地域の愛好会を講師に「親子でランドゴルフ大会」又、めぐまれた環境を生かした「海とカタラウー地引網」では、地区の漁師さんより昔盛んだった漁業と歴史について説明を聞き、地域によさに気づき誇りに思う気持が高まりました。

「ふれあい文化フェスティバル」では、地域の先生や各学年PTAが講師になり行なう交流活動があり、木工・竹とんぼ・パソコンでの親子カレンダー・など二十教室を行

なっております。

二、学び合い、楽しく集う

一昨年開校した公益文化大学を会場とした研修講演会では、親子での参加で子どもは大教室での映画会、保護者は教授による講演を受け、今までにない参加者でした。

親子レク等でも老人施設の車椅子をみがくボランティアなど、各学年で工夫をした活動を行なっております。

三、年に一度は熱くなる

現PTA、OBが実行委員になり、八月に夏祭りを開催、参加型の祭りや創作みこしパレード、フリーパフォーマンス、フリーマーケット、夜店酒田ばやしの踊りでは、実行委員がラジオ体操会場を回り子ども達に教え祭りを盛り上げます。子ども達が参加し、楽しみ心に残る祭りです。

子ども達が大きくなりお盆に帰省した時この会場に来れば、友達に会い、語り合える、そんな願いを込め、地域活性化のためPTA、地域の皆さんと燃える熱い祭りです。

自ら学び活動する 二十一世紀型PTAを目指して

山形市立楯山小学校
PTA会長 梅津克彦

平成十四年度、山形市立楯山小学校PTAは、栄えある「優良PTA文部科学大臣表彰」をいただくことができました。

この度の受賞に当たり、ご指導いただきました関係諸教育機関の皆様、この場をお借りしまして厚く御礼を申し上げます。

また、二月二日に受賞記念祝賀会を開催しましたところ、渋谷村山教育事務所長、相田山形市教育長、板垣県PTA連合会会長をはじめ、多くのご来賓の皆様からご臨席いただき、地区の皆様さん、PTA会員とともに盛大にお祝いできたことは記憶に新しいことです。

ここで、PTAの活動内容と今後の課題と展望について

報告させていただき、受賞の挨拶とさせていただきます。

楯山小学校PTAは会員世帯数は二〇六世帯（児童数二六八名）、常任委員会、総務部、生活部、母親委員会、学年委員会より構成されており、父母の総役員数は五十四名となっております。

楯山小学校PTAは、西暦二〇〇〇年の創立百周年記念事業の成功に向け、地域と一体となり活動を進めてきておりましたが、一方でいくつかの課題が発生しており、記念事業の終了を期に新しいPTA活動の創造に向け組織・機構の改革に取り組みました。

一、組織・活動の課題

(1) 少子化の課題
各学年四地区から二名の役員を選出することになってい

たが、地区によつては同じ人が毎年役員をしなければならぬ地区が生まれた。

(2) 活動の停滞
専門部の人数が限られているため、活動の範囲・内容に限界があった。

(3) 母親委員会
特別委員会であり会長委嘱のため、人選や事業の継続性に課題があった。

二、改革の内容

(1) 役員の選出

地区の児童数割を基本に全体に役員を割り当てるようにした。母親委員の選出も地区からの選出とした。

(2) 専門部の改編

体育部と環境整備部を統合し総務部を創設した。
母親委員会を専門部として組織的保障と継続性を図った。

三、改革の成果

(1) 総務部

◎部員だけの事業ではなく、会員全体に働きかけられる大規模事業が可能になった。
（校舎建設以来はじめて内壁の完全塗り替えには一五〇名の会員が自主参加）

◎地域連携の窓口機能の発揮
地区合同講演会などの開催

(2) 母親委員会
組織内の位置づけを明らかにしたことにより「母親の感性をPTA活動に」と言うコンセプトのもと研修活動等積極的に展開している。

◎給食試食会

◎親子ビデオ上映会

◎かしい母親の趣味の講座
◎会報「ほほえみ」の発行

(3) 総会

自ら学ぶ活動機会の拡大により、学校との距離感が近くなったことから、PTA総会への夫婦での出席者も多く、一〇〇%+αの出席者数となっている。

四、課題と展望

PTA会員が毎年世代更新する中で、活動そのものに対する意識は毎年変化してきて

ども達をじっと見守ってくれているようです。

今年度の活動スローガンは「子どもと一緒に、地域と一緒に」とです。このスローガンは、平成十三年度からの継続です。すべての活動が子どもとかけ離れていけば、何の意味もありません。私たち東中PTAは、生徒・地域・学校が力を合わせて次代を担う人材を育成していきたいと考えています。これからもこの信念で活動を展開していきたいと思ひます。

また私たちPTAの特徴の一つは、ほとんどの保護者が一度は役員を経験するシステムです。毎年役員の選出を行い、ほぼ全役員が入れ替わります。この結果、保護者一人

一人がPTA活動に関心を持つようになり、やらせられているという意識が薄れ、主体的で身近なPTA活動になっているということ。一年間の様々な活動に保護者の参加が多いのもそのためです。年二回のグラウンド除草作業も全校親子で行います。夏の朝の声かけ運動も全員で取り組みます。学年対抗のPTA運動会、PTAソフトバレー大会、学年毎の親子行事、地区毎の懇談会も多く参加者を

得て大変活発です。「まず、色々あって大変だあー」と言いながらも、皆さん楽しんでます。そんな親の姿を子どもは見ているのでしょうか。

昨今の子ども達を取り巻く環境は決してプラスになるものばかりではありません。善と悪が入り乱れる情報の氾濫、欲しい物が簡単に手に入る時代です。便利さの裏に隠れているのは、暗い落とし穴かもしれません。また子ども達の目に今の大人達はどのような映っているのでしょうか。一番身近な大人である私達が、

います。これまで実施してきた事業について、その内容や会員の意見を検証するなど、組織としての自律的更新機能を持ち続けることが重要なのではないのかと思ひます。

今後とも「できることを、できる人が、できるときに」の合言葉のもと、自ら学び活動する全員参加型のPTA活動を目指し取り組んでまいりますので、ご指導ご助言を宜しくお願い申し上げます。



手本となろうと肩をいからせるのではなくて、一人の人間として子どもと一緒に悩みながら成長していきたいと思ひます。

今年度も、我が東中PTAは、この度の名誉ある受賞を励みにしながら、「子どもと一緒に 地域と一緒に 学校と一緒に」のスローガンのもと、みんな一丸となって子ども達のすばらしい可能性を信じ、花咲かせる活動に積極的に取り組み、二十一世紀、「このころの時代」の担い手をしっかり育てていきたいと念願しています。

子どもと一緒に、地域と一緒に、学校と一緒に

白鷹町立東中学校

PTA会長 笹原俊一

日本PTA協議会長表彰

日本PTA協議会会長表彰

をいただいて

真室川町立釜淵小学校
父母と教師の会会長 伊藤勝憲

日本PTA全国協議会主催の年次表彰が都内のホテルにて開催されました。

本県からは団体として文部科学大臣表彰に山形市立楯山小学校PTAと白鷹町立東中学校PTA、そして日本PTA全国協議会会長表彰に米沢市立第六中学校父母と教師の会と我が釜淵小学校父母と教師の会がその荣誉に浴しました。

併せて行われた「たのしい子育て全国キャンペーン」三行詩・写真コンクール表彰と共に五七七の団体・個人が受賞する大変規模の大きな表彰式であり、肅々と進行されていきました。

来賓として文部科学大臣政務官、参議院議長、厚生労働

大臣政務官、衆参両院の文部科学委員長、読売新聞社、NHK関係者をお迎えし、祝辞として学校週5日制が今年度から完全実施となったことから、我々PTAとしての施策や行動に期待する言葉を多くいただきました。

会を代表してこのような大きな式に出席の機会を得、大変光栄なことと思っております。

八十一名の児童と五十六名の父母という学校規模ですが、その会の活動が評価されることとなり感謝とともに喜びでいっぱいです。今回の表彰は校長先生はじめ先生方、保護者の会員の協力と努力、そして教育振興会をはじめ、地域の方々と共に歩んできた活動

と取り組みが認められたことであり、皆様に心から感謝申し上げます、そして共にこの喜びを分かち合いたいと思います。

また、ご推薦いただいた地区及び県PTA関係者の方々、御礼申し上げます。

釜淵小学校は来年初立百三十年を迎えますが、我々父母と教師の会が発足したのは平成八年度からであります。以前から「地域の子は地域で育てる」が当然のように定着し、全戸の会員による教育振興会が子どもをそして学校を支えてきました。その振興会の専門部であったPTAがひとり立ちをしたのですが、各区長さんによる理事会・役員会・総会は、PTAの会議と同時に開催とし、育成委員会や新会

員歓迎会は共催で行うなど親子のような間柄であります。

今年のスローガンに『地域との連携を深め 子ども達の心豊かでたくましい「生きる力」を育もう』を掲げ、「保

体部」では運動会に校区八地区より中学生から高齢者まで各世代が参加する地区対抗障害物リレーを種目に入れ、昼は地区ごとに選手と児童と応援も交え車座になり昼食をとります。「研修部」では中学校区の小・中PTA共催による親子映写会や学校開放によるパソコン教室を開催し、「学年部」では親子で特色ある体験活動や学校祭に併せて行うバザーは地域の方々からも楽しみにされております。

また、学年部のお母さん方十二名で「母親委員会」を構成し、母親委員長を中心にテーマを決めて座談会を数回開いております。「広報部」は会報「かまぶち」を年四回発行し、学校と地域の話題を載せ全戸に配布しております。さらに校区には子どもがかかる「囃子保存会」や「番楽保存会」音楽を愛する

「小・中卓球クラブ」「スキークラブ」「スポ少」などがあり、ここでも地域の方々から育てていただいております。

我々父母と教師の会はこの恵まれた地域の一角でもあることの認識を高め、学校との橋渡しに努めていきたいと考えております。

また、この受賞を機にさらに気を引き締め、子ども達の学ぶそして育つ環境づくりに取り組み、「生きる力」を育んでまいりたいと思っております。



今後に向けて

このように、学校・保護者・地域が一体となり、子ども達を育成するこのような活動を今後も継続し、さらに発展させていきたいと思っております。

専門委員会活動

していただいております。

一方各委員会では、豊かな心や生きる力を育てるために、家庭生活のあり方を考えたり、奉仕的な活動などを行ったりしてきました。例をあげれば、研修では、基本的な生活習慣や健康な心身、食生活などのテーマで、講演会、研修会、学年・学級懇談会そして地区懇談会などを行いました。奉仕活動としては、学校の親子清掃作業を行いました。これは、歴史ある学校を大切にする心、共に汗すること、「親の背中」を見せることなどを求めた活動です。また、鬼面川橋両端のロータリーに行つた花植え活動は、花を育てることによって命の大切さを知り、大きなロータリーに花を植えることで心合わせることを求めた活動です。道を行き交う人の心を和ませる美しい花壇ができ、生徒も満足していました。自分の心のみならず他の人の心にも花を咲かせることのすばらしさを体験を通して得ることができました。

この目標となりました。限らない可能性を持つて未来を生きていく力や自分探しの旅をしている子ども達を、学校・家庭が一体となり支え育てることができるよう活動をし、PTAとして問い続け、創っていきたいと思っております。

地域と共に子育て

学区内の全戸に、PTAの準会員として子ども達の活動に支援をしていただいております。他にも、地域の地区公民館の館長さんとPTAの役員等が、地域の一員としての子ども達を、どう育て、どこに子ども達の活躍の場をつくるかを話し合い、それを地域で実践して毎年積み上げてきました。まさに地域全体で、子ども達の活動を見守り励ま

PTA活動目標

本校の活動についてですが、ここ数年、活動目標として、「学校教育目標と一体になった活動」、「生き方に関わる学年委員会・学級活動の推進」を設定しています。学校と家庭・地域が車の両輪のごとく同じ方向を向きながら、心身ともに健康な子ども達を育てるための方策を探った結果、

貴団体は多年にわたりPTA活動を通じて地域社会はもとよりわが国教育の進展に尽力されその功績はきわめて顕著であります。よってここに表彰いたします

平成十四年十一月二十二日
社団法人日本PTA全国協議会
会長 赤田 英博

学校・保護者・地域が

同じ方向を向きながら

米沢市立第六中学校

父母と教師の会会長 木村正勝

日本PTA協議会長表彰



☆ 平成14年度 第30回子どもの遊びと生活災害事故防止ポスターコンクール ☆

入賞誠にありがとうございます。今年度の県内からの応募数は、319点でした。その中から慎重に審査した結果、下記のように入賞者が決定しました。来年度も奮って応募されるよう期待しています。

最優秀賞 7点

八 嶽 まどか (大蔵村立赤松小学校 1年)	竹 屋 よしき (舟形町立長沢小学校 2年)
姉 崎 莉 沙 (真室川町立小又小学校 3年)	星 川 沙由里 (金山町立明安小学校 4年)
岸 里 奈 (最上町立満沢小学校 5年)	梅 澤 さおり (新庄市立日新小学校 6年)
武 田 直 子 (山形市立第九中学校 3年)	

優 秀 賞 16点

さとう としき (真室川町立小又小学校 1年)	早 坂 憂 (戸沢村立角川小学校 1年)
佐 藤 希 歩 (大蔵村立大蔵小学校 2年)	さとうりょうた (新庄市立泉田小学校 2年)
小 野 一 樹 (新庄市立萩野小学校土内分校 3年)	青 柳 恵 里 (戸沢村立戸沢小学校 3年)
岸 はづき (最上町立富沢小学校 4年)	荒 川 悠 (戸沢村立戸沢小学校 4年)
石 沢 莉 奈 (戸沢村立戸沢小学校 5年)	斉 藤 さつき (舟形町立堀内小学校 5年)
阿 部 貴 敏 (最上町立赤倉小学校 6年)	阿 部 華 代 (鮭川村立大豊小学校 6年)
後 藤 真 実 (村山市立楯岡中学校 1年)	須 藤 秀 和 (大蔵村立沼台中学校 2年)
石 川 直 幸 (山形市立第九中学校 3年)	鈴 木 沙 織 (新庄市立新庄中学校 3年)

優 良 賞 32点

か ん みちや (最上町立東法田小学校 1年)	佐 藤 温 美 (真室川町立釜淵小学校 1年)
土 田 真 成 (鮭川村立牛港小学校 1年)	斎 藤 里 穂 (真室川町立差首鍋小学校 2年)
斉 藤 拓 也 (鮭川村立牛港小学校 2年)	ほそや ちはる (金山町立有屋小学校 2年)
矢 口 まいと (戸沢村立戸沢小学校 2年)	ごとう だいき (舟形町立堀内小学校 2年)
八 嶽 千 草 (大蔵村立大蔵小学校 3年)	阿 部 夏 美 (最上町立赤倉小学校 3年)
齋 藤 貴 博 (真室川町立釜淵小学校 3年)	江 口 雅 也 (新庄市立昭和小学校 3年)
中 川 燈 (白鷹町立荒砥小学校 4年)	阿 部 恵 理 (新庄市立泉田小学校 4年)
高 橋 銀 花 (真室川町立平枝小学校 4年)	大 場 絵里香 (舟形町立長沢小学校 4年)
堀 恵 里 (最上町立大堀小学校 4年)	佐 藤 李 沙 (戸沢村立神田小学校 5年)
設 楽 裕 貴 (大蔵村立沼台中学校 5年)	佐 藤 春 佳 (真室川町立大滝小学校 5年)
三 浦 由 佳 (鮭川村立牛港小学校 5年)	佐 藤 美 菜 (真室川町立小又小学校 6年)
齋 藤 弘 武 (長井市立長井小学校 6年)	安 彦 高 道 (鮭川村立曲川小学校 6年)
小 沼 一 将 (金山町立有屋小学校 6年)	大 畑 玲衣実 (酒田市立北平田小学校 6年)
堀 井 美 里 (村山市立楯岡中学校 1年)	芦 名 政 弥 (山形市立第七中学校 2年)
小 野 ちひろ (真室川町立及位中学校 2年)	須 藤 彩弥香 (大蔵村立沼台中学校 3年)
丹 野 恵利佳 (山形市立第九中学校 3年)	佐 藤 麻奈弥 (山形市立第九中学校 3年)

文部科学大臣賞に 松原小学校PTA

——第24回全国小・中学校PTA広報誌コンクール——

全国優秀表彰PTA

◇文部科学大臣賞	酒田市立松原小学校PTA
◇日本教育新聞社社長賞	鶴岡市立鶴岡第三中学校PTA
◇佳作	新庄市立日新中学校PTA

ワンランクアップのための作りポイント

【審査委員の講評】

☆あいさつ・依頼原稿ばかりではつまらない。インタビュー記事にする等の工夫を☆アンケート調査だけで終わらせない。データを使ってもう一歩踏み込む☆新しい課題にもチャレンジを。例えば「総合的な学習の時間」「父親の存在」等☆「学校新聞」にしない工夫を。PTA活動を活性化させるための役割を生かす☆見出しの付け方の工夫を。インパクトあるものにするための視覚的効果を☆メリハリのあるレイアウト、写真の使い方や余白の工夫を。など

栄えある表彰 ありがとうございます

今年度、県PTAや郡市PTA、単位PTA活動にご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られましたのでご紹介いたします。

優良PTA文部科学大臣表彰

山形市立楯山小学校PTA
白鷹町立東中学校PTA

白鷹町立東中学校PTA
酒田市立第一中学校PTA
酒田市立琢成小学校PTA

日本PTA全国協議会長表彰

☆団体

真室川町立釜淵小学校父母と教師の会
米沢市立第六中学校父母と教師の会

☆個人

鈴木 吉彦 (前県PTA連合会副会長)
上島 健司 (前県PTA連合会副会長)
菅原 久継 (前県PTA連合会副会長)
山田 弥生 (県PTA連合会母親委員長)

県PTA連合会長表彰

☆感謝状

鈴木 吉彦 (前PTA副会長：山形)
上島 健司 (前PTA副会長：上山)
渡邊 清志 (前PTA理事：天童・東村山)
小口 格 (前PTA理事：東置賜)
蒲生 政明 (前PTA理事：西置賜)
小笠原 勇 (前PTA理事：鶴岡)
佐藤 祐司 (前PTA理事：東田川)
佐藤 英樹 (前PTA理事：酒田)
荘 司 恒夫 (前PTA理事：飽海)
樋口 勝也 (前PTA理事：県小学校教職員代表)
草壁 成義 (前PTA理事：県中学校教職員代表)
堀井 豊 (前PTA監事：上山)

☆表彰状

熊谷 昌和 (山形市PTA連合会)
戸田 正宏 (山形市PTA連合会)
山川 美江子 (山形市PTA連合会)
小山 廣隆 (山形市PTA連合会)
伊藤 康則 (山形市PTA連合会)
牧野 義文 (上山PTA連合協議会)
後藤 一夫 (西村山PTA連合会)
崎村 昌孔 (西村山PTA連合会)
佐竹 長司 (西村山PTA連合会)
菅原 大榮 (西村山PTA連合会)
菅野 文作 (北村山PTA連合会)
遠藤 典生 (最上地区PTA協議会)
小野 富雄 (最上地区PTA協議会)
真見 清 (最上地区PTA協議会)
大沼 藤一 (東置賜地区PTA連合会)
榎本 満 (西田川郡PTA連合会)

東北PTA連絡協議会長表彰

☆表彰状

◇個人

渡邊 清志 (前PTA理事：天童・東村山)
小口 格 (前PTA理事：東置賜)
蒲生 政明 (前PTA理事：西置賜)
小笠原 勇 (前PTA理事：鶴岡)
佐藤 祐司 (前PTA理事：東田川)
佐藤 英樹 (前PTA理事：酒田)
荘 司 恒夫 (前PTA理事：飽海)

◇団体

尾花沢市立常盤小学校PTA
山形市立山寺小・中学校PTA
米沢市立三沢東部小学校PTA
遊佐町立西遊佐小学校PTA
鶴岡市立由良小学校PTA

優良PTA県教育委員会表彰

山形市立楯山小学校PTA
天童市立高嶺小学校PTA
河北町立河北中学校父母と教師の会
大石町立亀井田小学校PTA
鮭川村立鮭川中学校PTA
長井市立伊佐沢小学校PTA



中国訪問で得たもの

新庄市立新庄中学校
三年 矢口 光

僕は今回の日中友好「少年少女の翼」に参加させていただき、いろいろな経験をさせて、たくさんを学びました。

初日は日本全国から中学生が集まり、結団式が行われました。異国の地で五日間一緒に行動する事にかんがりの不安を感じていましたが、すぐに友達をつくる事ができ、本当につれしかつたです。今までは友達といえれば県内だけでしたが、今回の事でいろいろな所に友達ができ、日本の中においても自分の視野が広がったように思います。

そして、広大な中国では、細かな事に神経を使う日本には見られないおもしろさを感じました。北京師範大学第二附属中学校の生徒との英語でのコミュニケーションの時には僕達の気持ちを理解しようと努力してくれました。また、日本人と中国人は外見上、ほとんど違いはありませんが、交通や食事など、生

活習慣については決して同じではありませんでした。万里の長城など、中国の歴史

においても驚きの連続でした。見張り台を兼ねた戦闘台やその人達の住居、そして数匹の馬が並んで通行できるほどの広さなどを、教科書や旅行のガイドブックを通して得られる知識とだけではなく、自分の目で確認することができました。やはり近隣国とはいえ、文化や思想の全く違う中国の社会や大地を、自分自身の目を通して見たことは、これからの自分にとって、とても大きな事だと思っています。

この旅行を通して中国について学んだり、人とのかわり合いを強めたりすることができたのは、最後まで共に行動してきた仲間がいてくれたおかげだと思います。

僕は今、中国の歴史はもちろん、国民の生活はどのようなのかと中国という国にとても興味があります。本当にありがとうございました。

一生の思い出

大蔵村立沼台中学校
三年 須藤 直美

私は、「少年少女の翼」に選ばれた時、うれしさをいっぱいでした。でも日が近づくにつれて、初めての海外旅行には何を持っていけばいいかわかりませんでした。そして、ちょっと不安もありました。それは、班のみんなと友達になれるかという心配でした。

出発の日。一人で県外に出るのは初めてで、無事上野までつけるか緊張と不安でいっぱいでした。でも上野では、いところが待っていてくれたのでちょっと安心しました。

ホリデイ・イン東武成田というホテルで一泊してから、成田空港から中国へ三時間四十分かけていきました。

一日目、北京少年宮を訪問しました。習字をやっていたり、卓球や美術など、自分に合った能力をのびしていくところでした。私は、小さい子どもでもきちんと先生の話聞き、偉いと

思いました。

二日目は、雑技見学が印象的でした。日本では見られないような技ばかりで驚きました。

三日目は、北京動物園と八達嶺長城に行きました。動物園なのに、パンダとレッサーパンダしか見ることができなくて残念でした。八達嶺長城は、歴史の教科書で見るよりすこきいかな所で感動的でした。ながめもすばらしかったです。

四日目は、北京師範大学第二附属中学のひととの交流でした。中国の人は小学校から英語習っているの聞いて、私なんか英語も全然話せないのに交流できるかなと思いました。こういう時に、英語をもっと勉強すれば良かったと思います。でも、単語だけでも通じたので良かったです。

そして最後の日。せっかく友達になった人との別れはすごく悲しかったです。でも、この旅行は、一生に一度しかできない体験だったので最高の思い出になりました。そしてこの旅行で中国のすばらしさが分かったのが良かったです。

PTA安全互助会たより

子どもの安全を守る

PTA活動を支援する

山形県PTA安全互助会

本会の趣旨をご理解頂き、多くのご加入誠にありがとうございます。皆様のご協力とご尽力に感謝申し上げます。

☆安全互助会では、こんな補償を

傷害事故見舞金の給付は、安全互助会賠償責任保険補償は、共栄火災で

■児童・生徒

学校管理下外（登下校時含む）及びPTA行事参加中の傷害事故と賠償補償が該当します。

■PTA会員

PTA行事参加中の傷害事故とPTA主催行事の管理者賠償補償が該当します。

■加入教職員

勤務外の傷害事故（賠償補償は非該当）PTA行事参加中の傷害事故とPTA主催行事の賠償補償が該当します。

☆加入状況

県内の学校数 四八八校
加入校数 四四一校
加入率 九三、四%

一〇〇%加入郡市

山形、上山、天童・東村山、西村山、北村山、最上、西置賜、飽海

☆安全互助会の主な事業

◎傷害事故見舞金の給付及び賠償補償（保険会社との契約等）
◎大きい事故が増えています。

◎補助事業

——活動補助費の助成——
。県PTA連合会に
。各地区PTA連合会（協議会）
——研修大会補助——
。県PTA研修大会補助
。東北ブロック研究大会、県開催地補助
。児童・生徒安全ポスター事業支援

☆請求についてお願い

。見舞金の請求期限は、事故日より一年となっております。
。期限内に請求手続きされますようお願いいたします。
。なお、百八十日以内の入院・通院などについて給付対象ですので、

それ以上（百八十日経過後）入院・通院での治療がある場合でも速やかに請求してください。

。申告書の治療内容欄で使用固定具を記入する場合、ギプス固定材質等が不明確になりやすいので、主治医にお尋ねになって記入してください。

。見舞金支給額が五万円以上か治療内容が不明確な場合は、治療証明が必要です。

。各押印場所の印は、朱肉を使用した印鑑で鮮明に押印して下さい。（シヤチハタ印や赤スタンプは認められません）

。請求書、申告書等の書類に間違いを記入した場合、白色の修正液及びカバーテープ等での修正は認められません。必ず訂正箇所には二本線を引き訂正し、訂正印を押印して下さい。

。請求書の金融機関の欄は、決済されて送金するときに必要ですので誤りや、記入もれの無いようにお願いいたします。

（金融機関は支店、支所まで明確に記入・口座の種類は必ず丸で囲んで下さい・口座番号は右詰で記入のこと・名義はフリガナを忘れないで下さい）

☆返送した請求書の中から

。安全互助会細則により傷害見舞金が支払いきれない項目が挙げられ

ています（免責事項）

例① 他覚症状のない怪我

○月△日十七時頃スポーツ少年団のサッカーの練習中右足のふくらはぎの筋肉が痛くなった。

医者に引き診察の結果筋肉炎と診断されました。

回答

急性性に欠ける筋肉炎のため、認定されません。

例② 闘争行為

○月△日二十時頃兄とおもちゃの取り合いで喧嘩になり、兄が弟の足をけった時、弟の左足の頸骨が骨折した。又けった兄も右足の中足骨が骨折した。

回答

闘争行為とは喧嘩も含まれます。結果の行為を予見で出来るにもかかわらず、あえてその行為をして傷害が生じた故意による傷害事故とみなされ認定されません。

例③ 疾病が起因とする怪我

○月△日十八時頃自宅風呂場で入浴して、急に立ったとき貧血を起こして転倒、風呂場の壁に頭をぶつけ打撲を負った。

回答

病気が起因とする怪我、たとえば日射病・心筋梗塞・脳溢血・心神喪失・食中毒・めまい・立ちくらみ等により怪我をした場合は、認定されません。

平成14年度山形県PTA連合会役員名及び事務局員名

役 職	氏 名	所属地区PTA	所属PTA
会 長	板 垣 喜代志	山形市PTA連合会	蔵王一中
副 会 長	逸 見 良 昭	山形市PTA連合会	山形一中
”	須 田 仁 美	上山PTA連合協議会	上山小
”	黒 金 道 雄	米沢市PTA連合会	米沢四中
”	安 藤 眞一郎	西村山PTA連合会	陵 東 中
理 事	齋 藤 和 敏	天童・東村山地区PTA連合会	天童三中
”	小 山 義 巳	北村山PTA連合会	楯 岡 中
”	茅 野 博	最上地区PTA協議会	新 庄 小
”	須 貝 智	東置賜地区PTA連合会	沖 郷 中
”	黒 澤 哲 人	西置賜地区PTA連絡協議会	飯 豊 中
”	中 野 伸 二	鶴岡市PTA連合会	朝 陽 六 小
”	佐 藤 恒 行	東田川郡PTA連合会	藤 島 小
”	菅 原 久 継	西田川郡PTA連合会	温 海 小
”	阿 部 良 雄	酒田市PTA連合会	酒田六中
”	後 藤 一 喜	飽海郡PTA連合会	蔵 岡 小
”	秋 葉 仁 志	県小学校教職員代表	宮 生 小
”	鈴 木 隆 重	県中学校教職員代表	上山南中
”	山 田 弥 生	山形市PTA連合会	山形六中
”	森 富喜子	最上地区PTA協議会	新 庄 中
監 事	二位関 賢 一	山形市PTA連合会	山形三中
”	大 石 章 夫	天童・東村山地区PTA連合会	天童三中
”	廣 谷 春 樹	山形市PTA連合会	山形七小
事務局長	佐 藤 恂 一	山形市PTA連合会事務局	
事務局員	高 橋 邦 孝	山形市PTA連合会事務局	
”	佐 藤 洋 子	山形市PTA連合会事務局	
”	熊 谷 慶 子	山形市PTA連合会事務局	

あしがき
 完全学校週5日制実施により家庭が、地域が、学校が変わることを求められる年でした。
 子どもの教育に親としてどう責任を果すかが問われています。

- 来年度の主な行事予定**
- ◆ 日本PTA広報紙コンクール
応募締切四月十八日(金)まで
 - ◆ 各・郡市より諸報告提出締切
6月3日(火)まで
 - ◆ 第一回県PTA理事会議
6月17日(火)10時30分～
 - ◆ 平成十五年度県PTA総会
6月25日(水)13時30分～
 - ◆ 日P全国研究大会鳥取大会
8月29日(金)～30日(土)
 - ◆ 東北研究大会石巻大会
9月13日(土)～14日(日)
 - ◆ 第55回県PTA研修大会米沢大会
10月25日(土)米沢市
 - ◆ 県教委と高校P連との合同教育懇談会
11月20日(木)

